

H.27(2015年) 九月（今月の掲示板）

真宗大谷派・願成寺

私が生きているのではなく、生かされている私です

『私は自分の力で生きている』と思いがちですが、『生きられている私』と納得できるのが念佛者です。昔の人  
が言った『食べ物様には仏が居られる。拌んで食べなさい』の意味は、雨・日光など『自然の恵み』と、世界中のひと  
々の働きの結果、食品が手に入るからです。また、食後、  
胃腸が自然に働いて栄養素を吸収し、寝ていても心臓  
は動き・肺は呼吸します。約40億年前の地球に生き物が  
生まれ、その遺伝子(DNA)がズーッと伝わって来た  
ので、今の地球の全生物は親類です。その無数の生き物  
(食べ物)の栄養素が人体を構成し・活動の源なのです。  
曾我量深先生が「阿弥陀仏(親様)は、この娑婆=堪忍  
土(人間世界)に居られます。皆、一緒に極楽浄土に往こ  
うと人々に声をかけ『なまんだぶ(短念佛)』と称えなさ  
いと説かれています。この念佛が苦惱を取り除き・樂な  
心を生み出し・日常生活の場が極楽浄土になるのです」  
と話されました。これに気づき・実感するのが信心です。

主な参考資料

- (1) 譲西賢(著)『...心に響くる分間法話...』神も仏も同じ心で抨みますか』、法藏館、p.38~39(2010年)。  
(2) 田上太秀(講演筆録)『...に幸あり』、在家仏教・協会、p.12~28(2015年9月号)。  
(3) 本多静芳(講演筆録)『ありとの念佛信心』、在家仏教・協会、p.12~32(2015年6月号)。